



北海道の日本海沖に、焼尻島という島があります。島の半分は羊の放牧地、残り半分はイチイの原生林に覆われた緑豊かな小島です。静かでのどかなこの島の診療所に赴任したのは、昨年五月のことでした。

### 元気なお年寄り

人口三百五十人。その内百八十人が七十五歳以上という超高齢化地域です。島に赴任する前にそのことを伝え聞き、今まであまり縁のなかつた在宅医療・ケアに関して(一夜漬けながら)勉強して乗り込みました。しかし、実際にはあまりその知識は役に立ちませんでした。

というのも、島のお年寄りは皆元気なのです。普段、足腰が

# 患者と話せる時間が武器

痛いと言って診療所にやって来る人が、いざ、ウニ採り、海草拾いになると険しい岩場をヒョ

イヒョイと越えていきますから。もつとも、厳しい島の環境に負けない人だけが生活してい

ける、ということなのかもしれませんが、一年間の在任期間の中で、何

人かの人が島を去り、陸の親族の元へ引き取られていきまし

た。そうした患者さんの家に行くと、段ボール一杯分の薬が余っていたりするわけです。

### 薬の多さに驚き

島の医療設備はお世辞にも十分であるとは言い難いものです。大きな病院にはない武器がありました。それは時間です。

一日の平均患者数は十人あまり。午前八時半から診察を始めても(本当は午前九時開院なのですが)、皆早起きで、せつかなため、その時間には玄関先に来ていたのです)、十一時すぎには終わってしまいます。

午後には患者さんが来ないこともしばしばありました。そういう時は、患者さんの家に行ってお話を聞いたり、薬をきちんと飲んで確認をしたりしていったのが、一人当たりに処方されている薬の多さだったからで

す。複数の疾患があつて、どうしても多くなるざるを得ない人もいます。しかし、すでに解決された症状に対しての処方も漫然と継続されている場合も多く見受けられました。

## 日下勝博

25期生2002年卒



診療所の正面。隣に公宅がある

## 北海道立焼尻診療所

【私の勤務地】焼尻島は、北海道の日本海側に浮かぶ周囲約12kmの離島。対岸の羽幌町まではフェリーで1時間を要する。島で唯一の医療機関が、道立焼尻診療所。医師、看護師、事務員各1人、合計3人が勤務している。

もともとへき地医療・家庭医療を志向していたため、この島の一年は非常に楽しく、印象深いものでした。現在は対岸の道立羽幌病院に勤務していますが、時折訪ねてくる患者さんの顔を見る度に、島での日々が懐かしく思い出されます。

(次回予定は神奈川県)